

視覚障害

その研究と情報

182号

2002

November



特集 ● ————— 1

盲学校生徒のための ◎塩谷 治

カナダ・アメリカサマーキャンプと文化交流

talk to talk ● ————— 16

バーチャル座談会 日本って暮らす留学生

ルポ ● ————— 30

中途失明者の自立を考える

—— 当事者4人の語りから ◎柏倉 秀克

シリーズ働く ● ————— 40

東京光の家「栄光園」

—— 働いてそして楽しんで ◎谷合 侑

今を走る ● ————— 49

河合純一さん ◎金森 なを

■ブレイルノート (点字ディスプレイ)

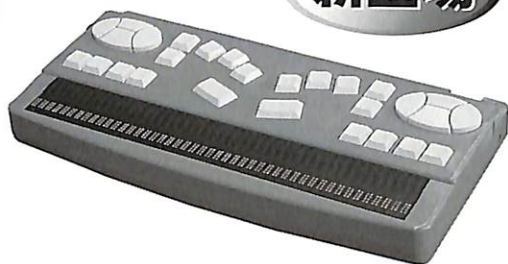
KGSの点字技術を集大成したスマートかつハイエンドな点字ディスプレイ

ブレイルファミリー
対応機種

Braille Note 46X

BN46X ¥449,000 (非課税)

新登場



- 点字ディスプレイ「ブレイルノート」は、点字利用者のパソコン利用の強力な支援ツールとして、正確でリアルタイムな点字情報を伝達する必須コミュニケーションツールです。新開発「ブレイルノート46X」は究極の点字ディスプレイとして、さまざまな便利機能を付加した、コストパフォーマンスに優れた、スマートでコンパクトな世界最先端の点字ディスプレイです。
- 点字文書の読み書きや校正はもちろん、時計、アラーム、カウントダウン・タイマー、ストップウォッチ、カレンダー、電卓など、日常生活の中で便利に使える機能やスケジュール帳、表の集計機能など、身の回りの情報管理に役立つ機能を内蔵、これらの機能は、点字ディスプレイ機能と平行して動作しますので、本体内部の文書を読みながら、パソコンを操作することが可能です。



Braille Note 46D

¥449,000

新価格 さらにお求めやすくなりました。

¥349,000

■ブレイルメモ®

ブレイルファミリー
対応機種

あらゆるシーンで活躍する点字利用者の必携情報機器

Braille Memo BM16

Ver1.2.1 198,000円(非課税)

片時も手放せないほど重要な存在となったブレイルメモは、昔ながらの不便な点字利用環境を根底から覆すほどのインパクトを持った新しい情報機器として、点字利用の利便性、有効性を再認識させ、点字文化をダイナミックに継承して行く最新便利ツールとして、着実に浸透、普及し始めました。ブレイルメモ16は8点16マスの点字表示部と各種入力キーをそなえた、バッテリー内蔵の小型軽量の携帯仕様で、いつでも、どこでも手軽にメモを取ったり、時計、電卓、カレンダーなど便利なアクセサリ機能を利用して、日常必要な身の回りの情報をしっかりと管理、あらゆる場面で、情報の有効利用ができる必携ツールです。



- カラーは、ブルーとピンクの2種類をご用意しています。

■点字ラベラー

ブレイルファミリー
対応機種

BL-100

¥98,000

点字用テープ

Aタイプ:250枚—¥3,900

Bタイプ:250枚—¥3,700

Cタイプ:250枚—¥3,500

簡単なキー操作で、液晶画面に表示された文字を選ぶだけで自動点字変換され、透明でフレキシブルな点字ラベルが作れます。点字名刺、薬袋、CD、食事メニュー、階段やエレベータの案内、その他、手軽に点字情報を作って、視覚障害者をバックアップしましょう。



■拡大読書器

ブレイルファミリー
対応機種

MLA14

カラーモニター付

¥198,000~

(日常生活用具、非課税)

スウェーデンの専門メーカーが永年培ってきたノウハウと最新技術で生産された、コストパフォーマンスに優れた高品質な拡大読書器: Magnilinkシリーズ。(MLA14, MLA17, MLC15, MLC, MLP14)



■立体コピー作成機 (ピアフ)

苦勞して作っていた触図もカプセルバー利用のこの装置で簡便作成。

■点字プリンタ (ベーシックD、エベレスト)

スウェーデンの専門メーカー、インデックス社の使い易い操作性と経済性に優れた、点字プリンタです。

点毎文化賞受賞の青木陽子さん



日本よりずっと後れている中国の視覚障害者を取りまく環境整備を——。青木陽子さん（40歳・全盲、アジア視覚障害者教育協会会長）は、天津市内において、中国の福祉の向上と障害者の社会参加促進に貢献できるリーダーの育成指導に尽力されています。

1993年、青木さんは、初の全盲留学生として単身中国にわたりました。翌年には、天津市視覚障害者日本語訓練学校を設立。高等教育も就業の機会もなく社会的に虐げられていた視覚障害者に対して日本語を無料で教え、日本への留学の橋渡しを実現する事業を開始しました。「意欲を燃やし留学を果たした生徒たちには、帰国後、自国の障害者への機会の拡大を図るために知識と技術を生かしてほしいのです」と厳しく、そして力強く、物心両面の支援をしています。

今や国営ラジオ番組などでも活躍する青木さんに、昨年、中国政府が中国への貢献を認め「中国友誼賞」を授与。この秋、日本では第39回点字毎日文化賞の受賞となりました。中国だけでなくアジア各国に自国の福祉向上に貢献する障害者を育成する日本語学校をつくりたいと熱い思いを語っています。

正秋バンド チャリティコンサート開催



東京光の家の「正秋バンド」は、9月下旬、都内の市民ホールにて「2002 愛のサウンドフェスティバル～正秋バンドチャリティコンサート」を開催しました。

天候不順にも関わらず、会場はほぼ満席。1200人強の聴衆を前に、「チャンピオン」「サライ」等のお馴染みのナンバーに加え、着物姿の高橋正秋さんが津軽三味線をバックに「望郷じょんがら」を熱唱。趣向の凝らされた日本民謡のムードで大いに盛り上がりました。また、新メンバーで最年少の高橋繁さんが美しく繊細なピアノを奏でると、会場中は静まりかえり、耳と心を傾けました。

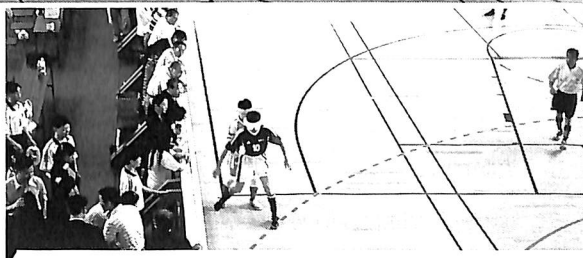
正秋バンドは、平成元年6月に結成。メンバー9名は全員視覚に障害があり、しかも他の障害をもあわせもっていますが、毎年、国内外を問わず各地で数多くのコンサートを開くという、多忙な日々を送っています。(正秋バンドの取り組みは、本誌今号の「シリーズ働く」でも紹介しています。)

(文・撮影／橋本京子)

視覚障害サッカー、国際交流会開催

「音で蹴るもう一つのワールドカップ」日本・韓国・ベトナム視覚障害者サッカー交流会開催——。日本で初めての大会が8月30日に高山市の飛騨ビッグアリーナにて、引き続いて9月1日に神戸市のしあわせの村でそれぞれ実現しました。

視覚障害サッカーは、欧州では国際大会も開かれるほど盛んですが、アジアでの普及は遅れています。サッカーの日韓ワールドカップにあわせブラインドサッカーをひろめ、友好を図ろうと計画。大会には日本・韓国・ベトナムから約50人の選手が参加。アイマスクをした選手は監督やキーパーの声などで自分の位置を判断しボールを追います。高山大会での優勝は韓国、神戸大会は日本となりました。



(文・写真提供／日本ライトハウス 早瀬真紀子氏)

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

次号（2003年1月 No.183）予告

特集① ビッグ対談 21世紀の国際視覚障害者福祉を考える
…… キキ・ノードストローム、ベンクト・リンドクヴィスト、指田忠司

特集② 大阪フォーラムとESCAP会議レポート…… 大瀧憲一

ルポ ブラインドサミットを終えて…… 加藤俊和

シリーズ働く 東京ワークショップ…… 橋本宗明

今を走る 安田文代さん…… 山口和彦

視 覚 障 害 —その研究と情報—

2002年11月 No.182

年間購読料 4,200円（送料とも）

発行日 2002年11月1日

編集人 高橋 実

（連絡先）社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター

〒167-0043 東京都杉並区上荻2丁目37番10号 Keiビル

電話 (03) 5310-5051 (代) FAX (03) 5310-5053

<http://www.siencenter.or.jp/>

振替口座 00160-4-16103

発行人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21

印刷所 株式会社 大活字

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-1-9 三崎町ビル3階

電話 (03) 5282-4361 FAX (03) 5282-4362